

平成6年度(第9回)専門看護コース実施要領

JICA

000

929

TIC

BRARY



①

目 次

1	平成 6 年度	2
1	(第 9 回)	3
1	専門看護コース	4
2	実施要領	5
4		6
6		7
6		8
7		9
8		10
9		11
10		12
11		13
12		14

平成 7 年 3 月



国際協力事業団
東京国際研修センター

目 次

1. コース名等	1
2. コースの目的・背景	1
3. 到達目標	1
4. 研修項目・研修方法	2
5. 研修員参加資格要件	4
6. 研修実施体制及び運営	5
7. 研修教材（※昨年度）	6
8. 研修付帯プログラム	6
9. 平成5年度研修日程概況（参考）	7
10. 研修の評価	8
付表-1 平成5年度実務研修計画書	9
付表-2 平成5年度実務研修機関リスト	13
付表-3 国別研修員参加実績表	14

国土交通省
国土院

1. コース名等

- (1) 和 文：専門看護コース
- (2) 英 文：The Group Training Course in Specialized Nursing
- (3) 研修期間：平成7年3月6日（月）～平成7年12月8日（金）
- (4) 定 員：7名

2. コースの目的・背景

(1) コースの目的

本コースは、開発途上国の看護婦に専門看護「クリティカル・ケア」の知識と技術を、講義と実務研修によって習得させ、自国の看護技術の質的向上に寄与する人材を育成することを目的としている。

(2) 本コース設定の経緯

近年の開発途上国の医療看護分野における「人材開発」へのニーズの高まりを受け日本政府は、本分野の経済協力の重要性を再認識した。この動きの中で、本事業団の技術プロジェクトも増加し、カウンターパートの受け入れも漸増している。

この流れの中で、プロジェクト実施国をはじめとする研修希望国の中堅看護婦を受け入れ、対象国のニーズに合致した専門看護技術研修を行うことは緊急かつ重要性が高いと考えられる。このような認識により、臨床分野からは卒後教育として専門性の高いICU・CCU看護分野を開設することになった。

3. 到達目標

- (1) 重症患者の病態、原因と症状、その治療について総合的に理解し、また患者の適切な処置ができる。
- (2) 特殊医療機器・用具の操作・理解ができる。
- (3) 臨床診察の重要性・過程、また介在する看護業務について理解する。
- (4) 重症患者および家族の心理的・社会的問題を理解する。
- (5) コミュニティにおける看護職のより広い意味の役割を確認する。

4. 研修項目及び研修方法

(1) 研修項目：

1) クリティカルケア・ナーシングの基本

－クリティカルケア・ナーシングと看護過程

－感染症対策・安全対策

－患者教育

2) 各種疾患の理解と看護の実際（各自の選択分野に沿う）

① 循環器系疾患を持つ患者

－心不全

－急性心筋硬塞

－外科的治療を必要とする疾患

－その他

② 呼吸器系疾患を持つ患者

－急性呼吸不全

－肺炎

－肺塞栓

－気胸／血胸

－その他

③ 腎泌尿器系疾患を持つ患者

－急性心不全

－慢性気球体腎炎

－その他

④ 神経系疾患を持つ患者

－脊椎損傷

－頭部外傷

－脳血管障害

－脳神経外科的疾患

－その他

⑤ 消化器系疾患を持つ患者



1127413 [1]

⑥ 内分泌系疾患を持つ患者

⑦ その他

－熱傷・火傷

－A I D S

3) 救急蘇生法

4) 検査・診断法と看護

① 心音

② E C G

③ 心エコー

④ 心カテーテル

⑤ 中心静脈圧モニター

⑥ 血液ガス分析

⑦ 意識レベル

⑧ 血管造影

⑨ C T

⑩ 電解質バランス

⑪ その他

5) 各種医療器械・器具の取扱いと管理

① 自動輸液ポンプ

② ペースメーカー

③ I A B P

④ 除細動器

⑤ 持続吸引器

⑥ 吸引器

⑦ 酸素吸入

⑧ ネブライザー

⑨ E C Gモニター

⑩ 血液ガス分析器

⑪ 電解質測定器

6) I C U・C C Uで使用される薬物と効果

7) 病棟管理, スタッフ教育

8) その他

(2) 研修方法

講義, 実務研修, 施設見学

※ 病院での実務研修に向け, 約2か月の日本語集中研修を行う。

5. 研修員参加資格要件

(1) 応募条件 (G. I. 記載)

- 1) 所定の手続きにより, 政府の推薦を受けた者。
- 2) 3年以上の基礎看護教育の課程を修了した者。
- 3) 5年以上の看護実習の経験を有する者。さらに最低1年間の応募する専門分野における看護の経験を有すること。
- 4) 35才以下の者。
- 5) 英語の充分なる会話力・読解力を有する者。
- 6) 研修に耐え得る精神的・身体的健康を有する者。
妊娠者は無資格とする。
- 7) 軍籍にないこと。

(2) 人選方法及び選考基準

国際協力事業団と(財)国際看護交流協会が協議の上行う。

(3) 割当国 10ヶ国

アジア地域 (4ヶ国) …バングラデシュ, ネパール, ラオス,

スリ・ランカ

アフリカ地域 (3ヶ国) …ケニア, セイシェル, タンザニア

太平洋州 (1ヶ国) …フィジー

ヨーロッパ (1ヶ国) …サイプラス

中南米 (1ヶ国) …ジャマイカ

※ 本年度は南アフリカも選考の対象とする。

募集要項(募集要項) 0101・0101 (6)

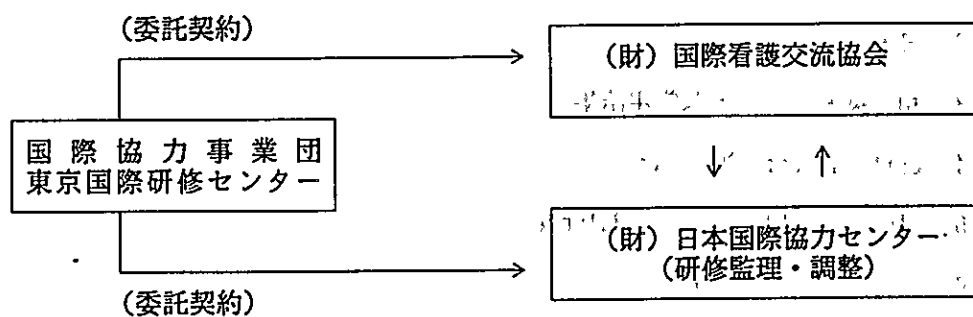
6. 研修実施体制及び運営

(1) 実施体制概略

国際協力事業団は、委託契約に基づき、(財)国際看護交流協会に本コースの研修指導・運営を委託する。

また、本コース効果的運営のために研修監理業務(通訳・進行調整等)を(財)日本国際協力センターに委託し、研修監理員1名の配置を行う。

これら業務の流れは以下のとおりである。



(2) 研修運営機関

a. 研修実施機関及び宿泊先

国際協力事業団 東京国際研修センター

(TIC : Tokyo International Centre)

〒151 東京都渋谷区西原2丁目49番5号

電話 : 03(3485)7051(代)

FAX : 03(3485)7904

b. 研修委託機関

(財) 国際看護交流協会

〒102 東京都千代田区九段北3丁目2番4号

電話 : 03(3264)6667

FAX : 03(5275)3499

c. 研修監理業務委託機関

(財) 日本国際協力センター

(JICE : JAPAN International Cooperation Center)

財団法人日本国際協力センターは、昭和52年に、国際協力事業団の実施に関する協力、国際協力に関する広報等において、わが国の国際協力事業の推進に貢献するために設立された公益法人である。

〒163-04 東京都新宿区西新宿2-1-1 新宿三井ビル内

電話：03(5322)2500

7. 研修教材（※昨年度）

1. 看護関係統計資料集
2. 日本の患者と医療施設
3. 和・英・西・仏・医学用語集
4. Critical Care Nursing
5. Fluid and Electrolyte Balance
6. Save the Children
7. 母子手帳
8. Illustrated Structure of the Human Body
9. Illustrated Textbook of Elementary Pathology
10. Illustrated Textbook of Elementary Physiology
11. Nursing in the World

8. 研修付帯プログラム

本件コース来日指定日は平成7年3月6日とし、翌日東京国際研修センターにおいて事業団主催の来日事務諸手続及び滞在費等の支給に係る集合ブリーフィングを実施する。

さらに、平成7年3月9日から3月11日までの3日間、日本事情の紹介を中心として、下記プログラムの通り、ジェネラルオリエンテーションを実施する。

YAPF International YAPAF (財)

日	時 間	内 容
3 / 9 (木)	9 : 45～12 : 00 13 : 30～15 : 00 15 : 15～16 : 45	歴史・文化 社会・日本人 政治・行政
3 / 10 (金)	10 : 00～12 : 00 13 : 30～14 : 30 14 : 45～16 : 45	教育 日本語会話 経済
3 / 11 (土)	8 : 45～13 : 00	都内見学 (バス)

また、本コースは講義・実習を通じ、かなり高度な日本語能力（主として会話力）が要求されるところ、国際協力事業団は、東京国際研修センター（TIC）において、平成7年3月13日（月）～5月31日（水）の間、日本語研修（のべ235時間）を実施する。

9. 平成5年度研修日程概況（参考）

研修期間

全体期間：平成6年3月7日（月）～平成5年12月9日（金）

日本語研修：平成6年3月15日（火）～5月31日（火）

※ 4月21, 22日 5月19, 20日を除く

講義・見学：平成6年4月21日（木）～4月22日（金）—— 見学

平成6年5月19日（木）～5月20日（金）—— 見学

平成6年6月1日（水）～6月17日（金）

平成6年7月18日（月）～7月22日（金）

平成6年9月5日（月）～9月9日（金）

平成6年10月14日（金）

実務研修：平成6年6月20日（月）～7月15日（金）

平成6年7月25日（月）～8月26日（金）

平成6年9月12日（月）～11月18日（金）

研修旅行：平成6年8月30日（火）～9月2日（金）

平成6年11月28日（月）～12月2日（金）

レポート作成他：平成6年8月7日（日）～8月12日（金）—— 会議

平成6年10月24日（月）～10月28日（金）—— 会議

10. 研修の評価

(1) 中間評価

実施研修期間中は定期的に施設を訪問し研修状況の把握や、研修効果の評価を研修員、指導者間で、所定のフォームやインタビューにより行う。

(2) 総合評価

1) 最終評価会において、当センター関係者、研修受入先国際看護交流協会の担当者及び研修員を交えて、総合的な討議を行い、今後の研修課題について、研修員の希望、改善すべき点について助言を聴取する。

2) 所定のファイナル・レポートにより、コース全体の成果、感想、提案等をまとめて、次年度に反映させる。

(3) 反省会

上記評価方法を踏まえ、コース終了後、国際協力事業団並びに国際看護交流協会による反省会を設け、総括的な評価を行い、コースの質的向上を目指すこととする。

(L)= 講義 (O)= 見学 (P)= 実習

9 月		10 月		11 月		12 月	
内 容		内 容		内 容		内 容	
1 木	"	1 (土) 2 (日) 休 日	実務研修 ⑫	1 火	実務研修 ⑬	1 木	"
2 金		3 月		2 水		2 金	
3 (土) 4 (日) 休 日	4 火	3 木		3 (土) 4 (日) 休 日			
5 月	9:30-16:00 (L) コミュニケーション論 モチベーション論 (角山)	5 水		4 金	5 月	プレゼンテーション (Ⅲ) (INFJ)	
6 火	9:30-16:00 (L) 看護に生かすカウンセリング (白井)	6 木		5 (土) 6 (日) 休 日	6 火	まとめ	
7 水	9:30-16:00 (L) 看護管理概論 (藤枝)	7 金		7 月	7 水	評価会・終了式	
8 木	9:30-12:00 (L) ICU/CCU における看護管理 (星野) 13:30-16:00 (L) ICU/CCU におけるスタッフ デベロップメント (菊地)	8 (土) 9 (日) 休 日		8 火	8 木	離日	
9 金	9:30-16:00 (L) 看護研究への導入 (羽山)	10 月	9 水	9 水			
10 (土) 11 (日) 休 日	11 火	10 木	10 木	11 金		ミーティング, ワークショップ (INFJ)	
12 月	実務研修 ⑬	12 水	11 金	12 (土) 13 (日) 休 日			
13 火		13 木	14 月	14 月			
14 水	14 金	14 金	15 火	15 火		実務研修 ⑭	
15 木	15 (土) 16 (日) 休 日	15 (土) 16 (日) 休 日	16 水	16 水			
16 金	実務研修 ⑮	17 月	17 木	17 木			
17 (土) 18 (日) 休 日		18 火	18 金	18 金			
19 月		19 水	19 (土) 20 (日) 休 日	19 (土) 20 (日) 休 日			
20 火	実務研修 ⑯	20 木	20 月	20 月		(O) 施設見学	
21 水		21 金	21 火	21 火		(L) 特別講義	
22 木	実務研修 ⑰	22 (土) 23 (日)	22 水	22 水		休 日	
23 金		23 (日)	23 木	23 木		レポートまとめ	
24 (土) 25 (日) 休 日	第20回幹部看護婦国際研究会 オブザーバー参加	24 月	24 金	24 金			
26 月		25 火	25 (土) 27 (日) 休 日	25 (土) 27 (日) 休 日			
27 火		26 水	26 月	26 月	研修旅行 II (施設見学)		
28 水	27 木	27 火	27 火				
29 木	実務研修 ⑱	28 金	28 水	28 水			
30 金		29 (土) 30 (日)	29 木	29 木			
	ミーティング, グループワーク (INFJ)	30 (日)	30 金	30 金			
		31 月					

付表 - 2 平成 5 年度 研修施設一覽 (参考)

施設名	住所	電話番号
東京厚生年金病院 院長 三島 濟一 総婦長 前原 正子	〒162 東京都新宿区津久戸町 5-1	(03)3269-8111
日本大学医学部附属板橋病院 院長 田中 隆 看護部長 一木 順子	〒173 東京都板橋区大谷口上町 30-1	(03)3972-8111
国立国際医療センター 総長 高久 文麿 看護部長 佐藤 恒子	〒162 東京都新宿区戸山町 1-21-1	(03)3202-7181
慶応義塾大学病院 院長 矢部 裕 看護部長 三浦 英子	〒160 東京都新宿区信濃町35	(03)3353-1211
日本医科大学附属病院 院長 仁井谷 久暢 看護部長 関根 公子	〒113 東京都文京区千駄木 1-1-5	(03)3822-2131

付表-3 国別研修員参加実績表

国名	'86	'87	'88	'89	'90	'91	'92	'93	計
<アジア地域>	<4>	<4>	<3>	<2>	<2>	<3>	<2>	<2>	<22>
カンボディア					1				1
バングラデシュ	1	1	1	1	1	1	1	1	8
ビルマ	1	1							2
ネパール	1								1
スリ・ランカ	1	1	1	1		1	1	1	7
パキスタン		1	1			1			3
<太洋州地域>								<1>	<1>
キリバス								*2 1	1
<中近東地域>		<1>	<1>	<1>	<1>				<4>
エジプト		1	1	1	1				4
<アフリカ地域>	<2>	<2>	<3>	<4>	<4>	<4>	<2>	<3>	<24>
ケニア	1	1	1	1	1	1	1	*3 1	8
ナイジェリア	1		1	1	1	1	1		6
セイシエル		1		1	1	1			4
スーダン			1	1	1	1*			4
タンザニア								2	2
<中南米地域>	<2>	<1>	<1>	<1>	<1>		<1>	<1>	<8>
コロンビア					1		1		2
ボリヴィア	1								1
パラグアイ	1	1							2
ジャマイカ			1	1					2
サイプラス								1	1
合計	8	8	8	8	8	7	5	7	59

*1 (注) 早期帰国

*2,3 (注) 早期帰国

